

長崎県支部

地域産業の支援のあり方 島原のそうめん事業について

全国で第2位の生産量を誇りながら、全国的にはほとんど無名で過ぎてきた長崎県を代表する地域産業である「島原そうめん」のブランド化について取り上げた。

島原そうめんは、揖保の糸（兵庫県）、三輪そうめん（奈良県）、島の光（香川県）といった全国ブランドの陰で、三輪そうめんの生産地として成り立ってきた。「島原そうめん」ブランドの確立が早くから叫ばれてきたが、さまざまな制約により実を結ぶことが出来なかった。業界の統一化を何度も試みたが、成就することはなかった。それが、平成14年7月の産地表示問題に端を発し、三輪からの受注が激減し、島原そうめん業界は最大の危機に面した。下請け構造から脱し、「島原そうめん」のブランド化による自力販売が不可避となったのである。

本調査・研究事業では、このようななか、ブランド化への対応策として111人の生産者により設立された（株）素兵衛屋に焦点を当てた。当社は、地元出身の作家である永川幸樹氏を社長に招聘し、その人脈により、初年度から全国コンビニチェーンと取引をはじめ、売上高を急速に伸ばしているユニークな企業である。一方、設立間もないため、まだ不備な点も多く見受けられる。

本事業では、島原そうめん業界における（株）素兵衛屋発展の重要性を認識し、素兵衛屋および産地としての地位向上、発展のための方策を検討した。

第1章では、「これまでの経過」として、島原そうめんの成り立ちから（株）素兵衛屋設立までの経過を見ていった。

第2章では、「素兵衛屋の現状と課題」を取り上げた。

第3章では、「（株）素兵衛屋発展のための提案」として以下の提言を行った。

- 1．組織作りとブランドの統一
- 2．統一ブランド振興のための品質保証について
- 3．ネット販売を含めた情報化
- 4．（仮称）島原そうめん館構想の提案
- 5．島原そうめんの新たなる挑戦